

未来のリーダー教室（教員編）を開催しました

今年度から財団の新しい事業、未来人材育成事業をスタートしました。間もなく到来する“超スマート社会（Society5.0）”で必要とされる資質・能力を育成する新しい教育プログラムの開発・実践・普及を支援し、未来をリードする人材づくりを目指すプロジェクトです。

昨年末12月25日には、小中高等学校の先生方を対象に、未来のリーダー資質について学ぶ実験的ワークショップ、「未来のリーダー教室（教員編）」を開催しました。内容は、①Art（生け花）、②Vision（未来予測）、③Leadership（リーダー論）を通して現場教員の覚醒を促すものです。併せて、このワークショップを教育プログラムとしてどう進化させるか、参加者の知恵と協力を集めることを狙いました。

全国公募で集まった意識高い20名の先生方からは、「Artは正解のない学び、多くの気づきを得た」「今後の学級経営につなげたい」「県の教員研修でやってほしい」など大変好評であり、5点満点のアンケート評価は4.9点をいただきました。

今回は、3月28日（土）に「未来のリーダー教室（中高校生編）」を、教員編プログラムを学生向けにアレンジして実施の予定です。この未来教育コンテンツが子ども達に刺さるか、楽しみです。



5種類の花を5人のメンバーで1種ずつ生ける。5人の異なる感性が、新しい「美」を創造します



「未来社会・モビリティを想像する」、「子どものリーダーシップとは」、濃い討議となりました

財団におけるガバナンス意識涵養の取り組みについて

当財団では、3年前から財団役員対象に題記の「公益性・法令順守意識涵養の為の勉強会」を年一回開催しています。この取り組みは、2016年度に監事および監査法人から利益相反の疑義を指摘され、その適正化を徹底するとともに、再発防止のためにガバナンス意識涵養を謳ったことが始まりです。過去2回は以下のテーマを取り上げました。

- ◆「公益法人の適正な運営—そのガバナンスと役員等の役割・責任」（2017）
- ◆「企業財団経営の在り方—独自性、独立性を大切にされた経営」（2018）

これら勉強会と、諸規程の改訂など日常的なマネジメント向上への取り組みにより、ガバナンスのレベルとして一定の水準に達したと考えています。

今年度は上記認識に基づき、過度に保守的になることなく自由闊達な公益精神で財団の今後を考えるために、世界の非営利・公益活動の識者として、日本の公益法人改革に尽力される、国立民俗博物館教授/総合研究大学院大学教授の出口正之先生にご講演をいただきました。講演テーマは、

- ◆「日本の財団の特質と世界の財団の今」（2019）

出口先生は、日本の公益法人がその歴史や公益認定制度の中で委縮・矮小化していることを指摘し、公益法人の本来の役割すなわち、「行政部門や民間営利部門では満たすことのできない社会のニーズに対応する多様なサービスを提供する」使命があることを説きました。

加えて財団役員は、海外での多様な公益プログラム開発、クラウド資金調達手法、マネーロンダリングなどの不正防止を学び、思う存分力を発揮するよう激励をいただきました。



出口教授は、公益法人の委縮を憂い、闊達な活動に奮起を促しました